



二葉だより

平成28年5月31日

No. 3

墨田区立二葉小学校

<http://www.sumida.ed.jp/futabasho/>

「言葉を大切に」

校長 水谷 光一

「あれとって。」「あれって何?」「それよ。それ?」「これかい?」「そう。それっ!」落語の世界でなく、毎日のうちの中の会話(?)です。名前が浮かばないこともあります。狭い場で、同じものを共有しているのが指示語ばかりです。息子が小学生の時には「おとうさん、トイレ。」「とうさんはトイレではないよ。」主語も述語もないとか。「今日は良い天気だから、外に行って遊びた・・・。」「行こう。行こう。」「最後まで話を聞いてよ。遊びたいけど、忙しいから来週、出かけようね。」「なんだ。」最後まで聞かないで途中から話をかぶせてくるとか、家の中なのでこれですむことが多いのですが、学校生活は、家より広いところで、様々な生活を家でしてきている人が話をして行動するのですから、これではすみません。だから、学校では「話は目を見て、最後までよく聞いてください。」と教えます。日本語はとにかく最後まで話を聞かないと、相手が何を言いたいかわからないことが多いです。このことは、「しっかり聞かないと分からない。」ということです。逆に言えば、日本語の特徴は、常に相手の話を「しっかり聞く」という態度を育むとも言えるのかもしれません。

さて、言葉の役目はいろいろありますが、たとえば、大人でも、もし、数を正確に表す言葉をもたなければ4以上の数は、多いとしか認識しないそうです。言葉がなければ、「たくさん」というようにまとめてしまうのです。言葉は考えるための大事なものです。しかし、だからと言ってただ、たくさん言葉を知っているだけでは意味がありません。いろいろな場で使って、言葉とそのもの実態とつながっていることが大切です。言葉だけが浮いてしまっただけでは、反対にきちんといろいろなことを考えることができないのです。

他の人に、自分の考えを伝えたいときは言葉で伝えることが多いです。自分の思っていることを言葉でうまく表現できずに、感情だけの表現になってしまいケンカになることもよく見られます。また、他人に考えを伝えるだけでなく、言葉で自分自身を励ましたり、元気付けたりすること、反省したりすることができるのも言葉なのです。言葉は心に響きます。それで行動が変わります。心と心をつなぐのも言葉が使われることが多いです。だから言葉はとても大事です。

今年、本校では今まで以上に、言語活動を大切にしようとしています。丁寧な言葉遣いをする。たくさん言葉を使う。日記、新聞づくりなど書く活動を多く取り入れる。人と話し合う、対話をする活動を多く入れる。読書活動に力を入れるなどです。

家庭での言葉もとても大切です。①丁寧な言い回しを意識し、言葉を大切にする。②お家の方が話をして最後まで聞かせる。③話を聞いてあげる。④一緒に話す。また家族がそろっているときには、ときどきは互いの考えや意見を交換する機会を設ける。話題について子どもが自分の考えを筋道立てて表現する場をつくってやる。⑤「きちんと元に戻すと後の人が使いやすいね」と、子どもに禁止などの理由を説明する。⑥「すがすがしい気持ちだね」など、子どもが普段耳にしない言葉を聞かせ、その言葉に興味をもたせたり、その言葉の使用場面を理解したりするチャンスを与える。ぜひ、ご家庭でも言葉を大切にしてみてください。学力の基礎の基礎が言葉です。

6月 人権月間&アジサイせんだん月間です。

相手に対しての言葉を大切にします。子供が多様な言葉の表現にふれるに、物語だけでなく、説明文や伝記などさまざまなジャンルの本の読書をしたり、読み聞かせをしたりしてみましょう。